

## 第 18 回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 令和 2 年 10 月 28 日（水） 18:30～19:31
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 吉田委員（座長）、山崎委員（副座長）  
井田委員、菊地委員、佐藤委員、原本委員、板垣委員、  
前田委員、中山委員、明神委員、平出委員

### ◆18:30 開会

（北村課長）

定刻となりましたので、ただ今より第 18 回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。開催にあたり網走市企画総務部長、岩永よりご挨拶申し上げます。

（岩永部長）

網走市で企画総務部長を務めております岩永と申します。よろしくお願ひいたします。本来であれば、網走市長、水谷がこちらに参りましてご挨拶をさせていただくところですが、用務のため出席がかないませんので、私の方から一言ご挨拶申し上げたいと思います。

本日は大変お忙しい中、当懇談会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様には日ごろより、それぞれのお立場から、地域振興にご尽力いただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

ご案内のとおり、定住自立圏構想につきましては安心して暮らせる地域を形成し、定住のための暮らしに必要なさまざまな機能を、両市町が補完し合いながらフルセットで確保していくという考え方から、地域の持続的な発展に大きく寄与するものと考えてございます。

大空町と網走市は平成 23 年に協定を締結し、同年に共生ビジョンを策定し、現在 10 年目となっております。この共生ビジョンは、圏域の将来像や、両市町が連携・協力する具体的な取り組みを定めるなど、行政運営の指針にもなっておりますことから、委員の皆様からご意見等を伺いながら進めてきたところでございます。

今日は、その成果指標の進捗状況についてもご説明をさせていただきたいというふうに考えております。また、今日も委員皆様の忌憚のないご意見を頂戴しながら、第 3 次のビジョンの策定に向けて作業を進めていきたいというふうに考えておりますので、今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

（北村課長）

続きまして、異動等により新たに委員になられた方をご紹介します。

オホーツク網走農業協同組合専務理事、板垣克司委員でございます。

大空町社会福祉協議会事務局長、佐藤幸史委員でございます。

それでは早速でございますが、以降の進行は吉田座長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

#### (吉田座長)

それでは、ただ今より本日の次第の 3、議事に入らせていただきます。最初に括弧 1 ということで、第 2 次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンに係る成果指標の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

#### (佐々木係長)

進捗状況の説明に先立ちまして、今回、初めて出席される委員もおいででございますので、定住自立圏構想や共生ビジョン、また、懇談会を開催する趣旨などにつきまして、この機会に改めて説明を申し上げます。

定住自立圏構想は総務省が推進している施策でございます。人口減少、少子高齢化が進展する中、地方の生活基盤が衰退し、将来的に、単独の市町村だけでは完全体の行政サービスを提供できなくなることが懸念されますため、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、定住に必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを圏域全体で確保するとともに、自立のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる圏域を形成していくことを目的とするものでございます。メリットといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたり、事業にもよりますけれども優先的に採択されるなどの優遇措置、また、各分野での事業実施に係るハードルが下がることなどがございます。

大空町と網走市は、平成 23 年 3 月に定住自立圏形成協定を締結し、同年 9 月に網走市大空町定住自立圏共生ビジョンを、また平成 28 年 4 月には第 2 次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンを策定いたしました。この定住自立圏共生ビジョンは、総務省の推進要綱の中で策定することと定められているものでございまして、協定により形成された圏域全体に係る将来像や、概ね 5 年間に渡る各市町村の具体的取組を記載する事業計画として位置付けられるものでございます。共生ビジョンの策定や所要の変更にあたりましては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市町村にて協議をすることとされておりまして、まさに本日のこの場が、その懇談会でございます。

それでは引き続き、共生ビジョンに係る成果指標の進捗状況につきまして、令和元年度の状況を説明申し上げます。

お手元の資料 1 をご覧願ひます。A4 判横の資料でございます。

はじめに 1 ページ、救急医療体制の確保でございます。救急医療体制の対応日数と、その下、休日救急体制の対応日数は、それぞれ 366 日、77 日で、現行ビジョンの取り組みが始まった平成 28 年度以来、4 年連続で目標を達成することができました。

次に 2 ページ、小児科及び産科医療体制の確保でございます。令和元年度の実績は、産科医療機関数は 2 施設で前年度から変わりございません。小児科医療機関数は、網走市内の医療機関 1 施設が閉院したことにより 3 施設となりました。

次に 3 ページ、観光振興の推進でございます。女満別空港利用者数の令和元年度の実績は 81 万 1,000 人で、前年度からわずかに減少しており、目標の年間 100 万人には届

きませんでした。参考までに本年度の状況を申し上げますと、9月末時点で14万1,000人にとどまっており、新型コロナウイルス感染症の影響が顕著に表れております。今後も、空港民営化を契機としたさまざまな利用促進策などを通じて、インバウンドの誘客やプロモーション活動に圏域として継続的に取り組んでまいります。

次にその下、生涯学習の充実でございます。住民対象講座の受講者数の実績は2,701人でありました。年末からの新型コロナウイルス感染症の影響により目標には届きませんでした。感染症対策を徹底しながら、引き続き、地域資源を生かした特色ある講座の開催に取り組んでまいります。

次に4ページ、地域ぐるみによる環境関連活動の推進でございます。藻琴川環境保全対策連絡協議会、また網走湖環境保全対策推進協議会、これら団体の取り組みへの参加でございますが、いずれも目標と同一の1件でございます。

次に5ページ、生活環境、衛生環境の向上でございます。下水道終末処理施設と、その下、し尿処理施設につきましては、目標と同一の1施設を維持しております。

次に6ページ、防災対策活動の推進でございます。網走市、大空町合同の防災訓練は、令和元年度は実施できませんでした。これまで、日程調整の不調などによりなかなか実施に至らなかった項目でございますが、本年度は8月に、水害を想定した机上訓練や学習会を実施したところでございます。

次に7ページ、福祉サービスの向上でございます。まずは子育て支援センターの利用率でございますが、この数値は、網走市にある子育て支援センターの全利用者数に対する大空町民の利用者の割合を示したものでございます。令和元年度は2.16%でありました。引き続き、利用者の増加に向けた周知、また利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。

その下、令和元年度の認知症サポーター養成人数でございます。4,391名でありました。前年度の4,018名からさらに増加をしたところでございます。目標の2,800名を優に超えている状況ではございますが、今後ますますの高齢化の進展を見据え、認知症に対する理解をさらに深めるため、引き続き、養成人数の増加を図ってまいります。

次に8ページ、圏域経済の活性化と雇用の創出でございます。事業所の従業員数でございますが、指標としている経済センサス活動調査、これが5年ごとに行われるものでありますため、現時点においては平成28年の結果が最新でございます。従業員確保のため、引き続き、女性の就労機会や高齢者の雇用機会の創出に取り組んでまいります。

次に同じく8ページ、水産資源の確保でございます。3ヶ年平均の網走湖漁獲量は、目標の900tに対し、令和元年度の実績は844tでありました。

次に9ページ、地域公共交通の維持、確保でございます。バス路線は7路線を維持する目標でございますが、2路線の廃止により令和元年度の実績は5路線となっております。本格的な人口減少社会の到来に伴う需要の縮小や、運転者不足の深刻化などにより、地域の公共交通の維持・確保は大変厳しい状況でございます。一方で、高齢者などの運転免許の返納が年々増加している中において、その受け皿としての移動手段の確保はますます重要な課題となっております。網走市では本年度、AIを活用したデマンドバスの運行実証実験を行っておりますが、引き続き、事業者をはじめとする地域の関係者ととともに、公共交通の維持や高齢者などの移動手段の確保に取り組んでまいります。

次に同じく 9 ページ、交流、移住受入体制の促進でございます。5 ヶ年平均のお試し暮らしの体験数は、令和元年度の実績は 8 件でございます。目標の 15 件に向け、引き続きさまざまな施策に取り組んでまいります。

次に 10 ページ、交流人口の拡大でございます。令和元年度の実績は 1,870 名で目標の 2,000 名を下回りました。主な要因は、ラグビーワールドカップの開催により、ラグビートップリーグ所属チームの合宿数が大きく減少したためでございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度も目標を下回るものと見込まれますが、引き続き、誘致活動に努めてまいります。

次に 11 ページ、人材の育成でございます。令和元年度の大学等との連携事業数は 8 件でございます。6 次産業化プロデューサーの育成事業や生涯活躍のまち構築推進事業など、資料へ記載の事業に取り組んだところでございます。

最後に同じく 11 ページ、市町間職員研修交流でございます。令和元年度の合同研修の実施回数は 1 回でございます。この研修は、数回にわたって開催される研修で、その一連の開催をもって 1 回と捉えているものでございます。

以上でございます。

#### (吉田座長)

ただいま事務局より、成果指標の進捗状況について説明がありましたが、委員の皆様からご意見、あるいはご質問がございましたらご発言をよろしくお願ひします。

#### (佐藤委員)

9 ページのお試し暮らし体験数は 5 ヶ年平均の数値ということですが、それが下がっている状況ですが、単年の数はどのようになっていますか。

#### (北村課長)

年度によって差はありますが、網走市はここ数年は 3、4 件。今年では 3 件来ています。最近はコロナの影響なのか問い合わせが多く、移住に向けた意識が増えてきたような印象を受けています。大空町も 5 件程度で、合わせて 7 件から 8 件という状況です。

#### (井田委員)

AI を活用したデマンドバスの話がありました。具体的にはどのようなものですか。

#### (北村課長)

今日は網走バスの明神委員もおいでで大変お詳しいですが、私から説明させていただきます。現在は実証実験を行っている段階でございますが、網走市の高台地区、駒場、潮見、つくし、そのエリアに限定した中で既存のバス停のほかに臨時のバス停を設け、スマートフォン、あるいは電話でどこからどこまで行きたいかを予約します。あとは AI が導き出した最も効率的な経路に従ってバスを走らせる仕組みです。料金は一律 300 円で、自分が移動したい時間に移動したい場所へ行けるという仕組みです。時刻表が無いというイメージで、複数の乗車希望があった場合にも AI が最適な経路を判断してく

れるというものです。

**(明神委員)**

全くそのとおりです。乗降場所は110ヶ所以上あり、その箇所であればどこで乗ってどこで降りても大丈夫です。路線バスのように経路も決まっておられませんし、ダイヤもございません。今までは閑散とした路線では3時間くらい路線バスが来ないということもあったのですが、この場合は車両が近くにあれば数分で配車されますし、既存のバス停のほかに新たに30ヶ所ほどのバス停を設置しました。使用車両はワゴン車ですので、これまで大型バスが入れなかった狭い道であったり、かなり離れたところにもバス停を新設して取り組んでいます。昼間の時間帯は路線バスのお客様も少なく、かつ本数も少なくという悪循環が続いておりますので、こういった予約型の交通を上手に使うことで効率的にお客様が移動できるようにという、網走市が主体となった事業でございます。

**(吉田座長)**

これまでの利用状況はどうですか。

**(明神委員)**

実証運航は8月1日から開始し11月30日までの4ヶ月間、10時から16時までなのですが、まだ認知度の部分で、8月は1日当たり5名ほどの利用だったものが、10月は速報値で9名まで伸びておりますので、認知度がしっかりと上がってくれば、ハイヤーと路線バスと予約型バス、この住み分けはできてくるのかなと思っています。

**(井田委員)**

大変効率的な運用で、固定費もかからないということで、ぜひ進めていただきたいと思います。

**(吉田座長)**

このデマンドバスは1路線という形になるのですか。

**(明神委員)**

指標の路線数は広域路線のことかと。

**(北村課長)**

市町村間を結ぶ郊外路線のことで、市内路線とは別です。

**(明神委員)**

効率化するとどうしても路線数は減少しますので、路線数を指標とするとなかなか難しい。そこは引き続きご検討をいただきたい。乗客数とか人口に対する割合とか、何か別の指標の方がよろしいかと。これが7路線に復活することは正直なところかなり難しいと思っています。

**(中山委員)**

3 ページの広域観光のところで空港利用率が 14 万 1,000 人と出ているのですが、これから求められる観光とか、今までのインバウンドに頼った観光とか、今後の問題としてはどのように考えていますか。

**(北村課長)**

この指標を設定したときには当然に新型コロナは無く、インバウンドが増加している状況下で 100 万人と設定したものです。実際にはコロナ禍の影響でこのような結果になっているわけですが、これがいつ収束するかは見込めない状況でございますし、インバウンドに頼れるような状況でもありません。ただし世界的に収束した段階では、インバウンドの誘客促進は進めていかなければならないということもございまして、空港の民営化により、会社がどのような取り組みをしていくかということでも変わってくるものと思っています。正直なところ、現時点で先を見通すのはなかなか困難な状況です。

**(中山委員)**

観光事業の根底が狂ってきていると。それと特に地方は都会とのギャップが余計に、生活するということに対して厳しさを増してくるのかなということで、局面としては非常に厳しいと感じている。観光協会でも今年は事業を一つもできなくて、色んなことを考えていかなきゃならない状況だと感じています。

**(吉田座長)**

今回は元年度の実績ということですが、2 年の評価をどのように位置づけるかということが非常に難しいなということで、何かお考えは。まだ途中ですけれども、状況的にはかなり想定と異なってきていると。

**(北村課長)**

コロナの影響がいつ収束するのかが見込めない状況でございますが、網走市も大空町も、総合戦略などで目標数値を持っております。それはコロナが無いという状況ではございますが、コロナが落ち着いたときには、現段階ではその目標数値を目指すという取り組みしか無いというところ。

**(吉田座長)**

そのほか何かございませんか。

(「なし」の声あり)

それでは次に、第 3 次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの策定および素案についてということで、事務局から説明をお願いします。

**(佐々木係長)**

第 3 次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの策定および素案について説明を申し上げます。素案作成に当たりましては日々、最新の情報に置き換えながら、いま現在も流

動的に内容の見直しを随時図っているところでございます。委員の皆様にも事前に資料をお送りした後も変更箇所がございました。具体的には 21 ページ、39 ページ、40 ページの部分でございます。今回、内容の置き換えをお願いしようとして別途、紙 3 枚をひとまとめにしたものを配付しておりますので、21、39、40 ページの内容につきましては、そちらに内容を置き換えてご解釈願いたい。このように存じます。

それでは資料 2 をご覧ください。A4 縦の冊子状の資料でございます。

定住自立圏共生ビジョンは、圏域全体を暮らしやすく自立した地域にするための、圏域の将来像と具体的な取り組みを示したものでございます。現行の共生ビジョンの計画期間が令和 2 年度で終了いたしますため、本年度中に、令和 3 年度から始まる次の 5 年間を見据えた新たな共生ビジョンを策定する必要がございます。今、皆さまにご覧いただいている資料 2 が、事務局で作成した新たな共生ビジョンの素案でございます。これに、今後皆さまからいただくご意見を反映しながら、年内に成案化してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願います。

それでは素案の概要を簡単に説明申し上げます。

共生ビジョンは、第 1 章から第 5 章までの構成としております。表紙を 1 枚めくっていただき 1 ページです。第 1 章は、はじめに、と称して、定住自立圏構想の概要、名称、構成市町、共生ビジョンの目的や期間を記しております。該当ページは 1 ページと 2 ページでございます。

次に 2 ページをお開きください。第 2 章は圏域の概況と現状でございます。2 ページと 3 ページには、圏域の概況と、構成市町である網走市と大空町の概要を、4 ページから 11 ページには、人口や事業所数などの推移について、両市町の統計数値を記しております。続いて 12 ページから 16 ページには、圏域の現状と課題を、医療・広域観光・教育など、11 の協定分野ごとに記しております。

次に 17 ページをお開きください。17 ページから 23 ページは、第 3 章、これまでの取組状況と今後の方向性でございます。ここでは、第 2 章、圏域の現状と課題の中で記した 11 の協定分野を、生活機能の強化に係る政策分野、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野、圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野、この 3 つの政策分野で大別しながら、それぞれ、これまでの取組、今後の方向性を記しております。

次に 24 ページをお開きください。24 ページは、第 4 章、圏域の将来像でございます。ここでは、第 2 章と第 3 章を踏まえた、目指すべき圏域の将来像を定めております。今後ますます進行する人口減少・超高齢社会において、誰もが健康で活躍し、将来に渡り安心して暮らし続けることのできる圏域の形成を目指し、網走市と大空町は、互いの独自性を尊重し、さらに連携を強化し、それぞれの役割に応じた取り組みを進めることで、保健、医療、地域公共交通、コミュニティなどの生活機能の確保や、圏域の特性を活かした産業振興、交流・関係人口の創出、結婚・出産・子育てがしやすい環境づくり、将来を担う人材育成など、都市機能・生活機能の維持・確保に努めることとしております。

その隣、25 ページ以降は、第 5 章、定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組でございます。具体の取り組みは全部で 25 事業ございますが、それを体系的に示したものが 25 ページの体系図でございます。26 ページから最終 45 ページまでは、将来像を実現するためのこれらの 25 事業について、事業概要、成果指標、両市町の役割、個別

事業と事業費をそれぞれ記しております。

以上、新たな共生ビジョンの概要について説明申し上げました。新たな共生ビジョンは、持続可能な圏域を形成するための、これまでの取り組みを継続することを基本路線としつつ、医療・公共交通など、生活機能の確保に必要な取り組みについてさらに強化したものにしていきたいと思いますと考えております。

どうか忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

#### (吉田座長)

ただいま事務局より、第3次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの素案について、説明がありました。まずは何か質問などありますでしょうか。それからこれはまだ素案とのことですので、これから成案に向かっていくということですので、ここが抜けているとか、ここをもう少し組み込むといいのではないかといいところもご意見願います。ご意見は取り入れていくとのことですので、素案に囚われずぜひご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### (板垣委員)

29ページの産科医療機関の関係です。この地域にしてみれば2施設は十分な施設数かと思っておりますが、最近ちょっと気になるのが北見の産科で産む方が周りにも居たりして、不妊治療などであれば仕方ないかと思うのですが、分娩も北見の産科を利用しているようですので、施設の充実というのは当然なのですが、利用しやすい、産みやすい環境、私は十分に整っていると思っておりますが、そういう実態を踏まえた中で進めていただきたいと思います。子どもを産みやすい環境という雰囲気が出ていけば、多分、網走で産んでくれると思う。

#### (吉田座長)

25ページに体系図がありますが、何か追加した方がよい取り組みなど、ご意見はありませんでしょうか。あるいは、先ほどのバス路線のように成果指標に係るものなど。多岐に渡るものなのでなかなか難しいかと思いますが、これはまたご意見をいただく機会はあるのですか。

#### (中野主査)

本日の懇談会終了後も、引き続き皆様からのご意見をいただきたいと思いますと考えております。お気付きの点などございましたら、事務局の網走市企画係までお知らせください。本日、お手元に意見様式をお配りしておりますが、こちらにご記入の上ファクスや郵送、あるいは係のアドレスに宛ててメールでお送りいただくことでも結構でございます。なお、ご意見は必ずこの様式でというものではございませんので、メールでご意見をお送りいただく際は本文欄に直接ご記入いただくことでも結構です。どうぞよろしくお願いいたします。



**(中山委員)**

30 ページの広域観光のところでは指標が 108 万人とのことですが、この数値はどのような根拠で設定したのでしょうか。

**(北村課長)**

網走市観光振興計画の目標値と整合させております。現状を考えると難しい数値かなと思っておりますが、既存の各種計画の数値を指標としている部分もございます。

**(中山委員)**

女満別空港は今日も HAC の丘珠便が出たり医療関係の方が利用したりと、空港が近いということの優位性はあると思いますが、それと併せて LCC、親の JAL や ANA が厳しい状況になっていますが、広域観光を考えると LCC の乗り入れを項目の中に入れることは可能でしょうか、指標として。そのことが集客に繋がってくるだろうし、今後の観光の在り方も変わってくると思うのですが、どうでしょうか。

**(北村課長)**

観光振興の推進にはさまざまな取り組みが必要だと考えております。この成果指標はその中の一つでございまして、色々な取り組みをした中で空港の利用者数を一つの指標として設定しているわけでございます。両市町は今までも LCC の誘致やインバウンドの誘客促進に取り組んでおり、引き続きさまざまな施策に取り組んでいきますが、成果指標として設定するかしないかというところで…。

**(中山委員)**

利用者数を成果指標として謳った中で、事業概要などに記載することは可能でしょうか、実際に取り組んでいますし。書いた限りはやらなきゃならないという側面もあるかと思えますけれども。釧路にも入っていますし、色んなところで空港の役割は出てくると思うので、それはちょっとご検討いただきたい。

**(北村課長)**

事業費の欄に取り組む事業を一覧にしてございます。ここはあまり詳細に記入してしまうと、起債対象事業が限定されてしまう側面もあり、多少、大枠での表現としていますが、例えば女満別空港整備利用促進協議会負担金という予算の中では、LCC の誘致に絡んだ取り組みも含んでおります。

**(岩永部長)**

課長から説明申し上げましたように、ある程度、現実的な路線も見ていかなければならないのですが、観光ですと 12 ページ以降に圏域の現状と課題を記載しておりますが、その中に LCC の記載であったり、広域をこれからどうしていくのか、DMO も含めて。そのような今まで無かった考え方も記載しておりますので、これに、今後どうしていくのかという数字があればお示しいただきたいと思っております。現段階ではなかなか難しいとい

うこともあるかと思いますが、かつては広域の救急医療についてもかなり難しいと言われていたものが、もう 10 年くらいになろうかと思いますが網走厚生病院、地域のセンター病院の当時の藤永院長を中心にして、異なる医師会が同じ救急体制を組むことができた例ですとか、あるいは病院群輪番制、これは二次医療圏の中で 1 つの救急医療体制を組むということですが、これも斜網地区と北網地区で、1 つの制度で 2 つの運用をしているという、北海道はなかなかダブルスタンダードを認めませんが、そういう運用も可能になっているのは、この共生ビジョンがあったおかげというようにも考えておりますので、そういった使い方が、このビジョンを通してできれば良いというふうに考えています。

これまで各委員からあったご指摘は、なかなか市民町民からこのビジョンの成果が見えないということですが、救急についても特定の方が利用している、あるいは生活路線バスも特定の方が利用しているということがあって、なかなか皆さんが日常の中で成果を感じにくいという点ではありますが、17 ページ以降についても、中山委員がおっしゃった LCC や今後の観光の在り方についても願意として記載していくもできるかと思っておりますので、そういうことも含めてぜひご意見をいただければと思います。

#### (吉田座長)

私からも 1 つ。5 年を見ての成果指標ということかと思いますが、中間評価のようなものを設定して、指標を状況の変化に対応させるというようなことは可能でしょうか。

#### (北村課長)

進捗状況の確認は毎年行っていきますが、その中で委員からご意見などいただいて改正することは可能です。

#### (佐藤委員)

評価指標を作成するときの、例えば 30 ページの空港利用率ですと、81 万 1,000 人から 108 万人となっていますが、この元の数値の年度は令和元年度の数値ということでしょうか。一方で 31 ページの受講者数ですと 3,170 人は平成 27 年の数値のようでした、元の数値の設定の仕方によって見え方が違うなど。この辺いかがでしょうか。

#### (北村課長)

基本的には現在承知している最新値を基準値としていますが、住民対象講座の受講者数は、令和元年度はコロナの影響で落ち込み、平常時の値ではないので、27 年度の数値を当てております。分かりにくい状況ですので、次回までに改めて精査いたします。

#### (佐藤委員)

29 ページの医療機関数ですと、令和元年度は 3 施設になったとのことですから 3 から 4 と記載すべきなのか、これだと 4 を維持しようと思えますので、そのあたりの記載は色々と調整も必要かと思えます。

(北村課長)

事務局で改めて精査いたします。

(中山委員)

差し替えのページはどのようにしたら良いのでしょうか。紙を入れ替えると辻褃が合わないような気がします。

(中野主査)

例えば 21 ページですと 7 番の産業振興ですが、産業振興はもともと 1 ページで収まっていたものが、見直しにより 2 ページの量が必要なものとなりました。当然、それ以降のページ数がすべて繰り下げられてしまいますので、それを防ぐために差し替え後の紙には 21-1、21-2 としてページを振っています。紙を物理的に差し替えていただくのではなく、内容を差し替えて解釈してくださいというお願いでございます。次回にビジョンをお示しする際にはすべて溶け込ませ、ページ番号も振り直してお示しいたします。

(佐藤委員)

24 ページの下に圏域の将来人口と目標がありますが、令和 22 年の目標として 38,757 人とあるのですが、これは網走市と大空町の数字を合わせたものでしょうか。

(北村課長)

そのとおりです。人口ビジョンで持っている数値を合算したものです。これは分けて表示した方が分かりやすいでしょうか。

(佐藤委員)

どうでしょう。ビジョンのために算定された数値なのか、別で既に持っている数値を合算したものなのか、それを単純に確認したかったのが質問の趣意です。

(北村課長)

分かりやすいように整理したいと思います。

(吉田座長)

網走市大空町圏域の、というタイトル付けであれば合算していることは伝わるかもしれませんね。

ほかに何かございませんか。

(「なし」の声あり)

それでは繰り返しになりますが、素案を読んでいただいて、身近なところからで結構でございますのでご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいいたします。

最後にその他でございますが、委員の皆さんで何かございませんか。

(「なし」の声あり)

事務局から何かございませんか。

(中野主査)

今後の予定でございますが、本日、皆様からいただいたご意見を反映の上、12月中旬に開催予定の次回の懇談会において成案としてとりまとめ、翌1月にパブリックコメントの募集を行いたいと考えております。引き続きお手数をおかけいたしますけれども、ご協力の程よろしく願いいたします。

なお、資料とともに事前にお送りしておりました報酬振り込みのための口座の確認書でございますが、本日ご持参の方はこの後ご提出くださいますようお願いいたします。

(吉田座長)

次回12月で成案化するということですので、よろしくお願いいたします。

それでは以上で第18回の懇談会を終了いたします。本日はありがとうございました。

◆19:31 閉会